



- ① 柔道を通じて子どもたちの健全育成をめざし活動されている「玉津柔道教室」をレポート（藤原さん）
- ② 「のじぎく兵庫国体」に先立ち行われた「わくわくホッケースタジアム」の様子をレポート（志水さん）
- ③ 大牟校区を元気づけようと活動されている「なかの里」の活動をレポート（高岡さん）
- ④ ファミリーサポートセンターなど、篠山市の子育て支援事業の取り組みをレポート（向井さん）

とても早く過ぎた一年でした。前任者の知人が大変楽しそうにリポーターをされていたので、私もつい軽い気持ちで引き受けました。

広報係の皆さんの「感じたままの素直な気持ちで書いてください」とのアドバイスがあったからこそ、自然体で書くことができました。また、月初めの「来月号の原稿をお願いします」との電話が楽しみでした。どんな方々とお会いでき、お話が聞けるのかと期待でいっぱいでした。

取材先では、皆さんが親切に迎えてくださり、貴重なお時間をいただきました。お話や熱意をうかがううちに、「しっかりと言葉を文章にしなれば、活動されている皆さんに申し訳ないな」と何度も思いました。

この篠山で活躍されている皆さんからパワーをたくさんいただいたとき、魅力あふれる人柄や思いを書くことができ、本当に幸せでした。取材先の皆さん、広報係の皆さんには心から感謝します。ありがとうございました。



藤原裕子さん（住山）

最初、リポーターのお話をいただいたときは、何年も専業主婦生活にどっぷりつかった私には、「絶対無理だな」と思いました。

しかし、広報係の皆さんや取材をさせていただいた皆さんのお力をお借りし、何とか三回のレポートが出来上がりました。

何回も書き直し、出来上がった広報紙を見たときは恥ずかしい反面とてもうれしかったです。一生懸命に書いたこの記事が、少しでも人の役に立ったり、興味をもってもらえたりしたらもっとうれしいですね。これからも、自分が一生懸命でいることを何か見つけて頑張っていきたいと思えます。

向井美和さん（打坂）



この経験は本当に貴重なものとなりました。ありがとうございました。これから、リポーターをされる皆さん、絶対何か得るものがあると思います。今後も、街かどリポーターのページを楽しみにしています。一年間本当にお世話になりました。

前任者から「リポーターをしてみない」と聞かされたときは、とても驚きました。しかし、「断るのは簡単だけど、何でも経験だ。やってみよう」と引き受けたのが始まりでした。



志水真子さん（今田町下立杭）

取材前に質問の仕方や内容を考えてるのは大変でしたが、興味はあるけれどなかなか行けなかった場所に行くことができました。また、すぎな皆さんと出会えて、楽しい時間を過ごすこともできました。取材をさせていただいた皆さんの思いをうまく伝えられたかどうか分かりませんが、「記事をみて出掛けたよ」と言う方がいらつしゃればうれしい限りです。

取材先では緊張しましたが、快く答えていただいた皆さん、親切にご指導いただいた広報係の皆さんのおかげで、無事終わることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

七月号「プラスチックこみの別はきちんとしていきますか。」に始まり、十一月号「シャランンささやまの取り組み」、二月号「なかの里」の皆さんを担当させていただきました。

皆さん取材を快く受けてくださり、貴重なお話をうかがうことができました。自分の書いた文章が活字になり、広報紙に掲載されると、まるで新聞記者になったような気分でした。その反面、「文章を書くことって難しいなあ」「責任重大だなあ」とあらためて痛感しました。

そんな私に力を貸してくださった



高岡すみ子さん（小原）

のが、広報係の皆さんです。また、皆さんの「広報紙見たよ」という声にも励まされました。この一年間、私はいろいろな方々に支えていただいたように思います。今は、「ありがとうございました」といいたいです。感謝の気持ちでいっぱいです。

人が好き ますが好き

街かど Report リポート

この一年を振り返って

今年度お世話になったリポーターの皆さんに、一年間の思い出を話していただきました。

